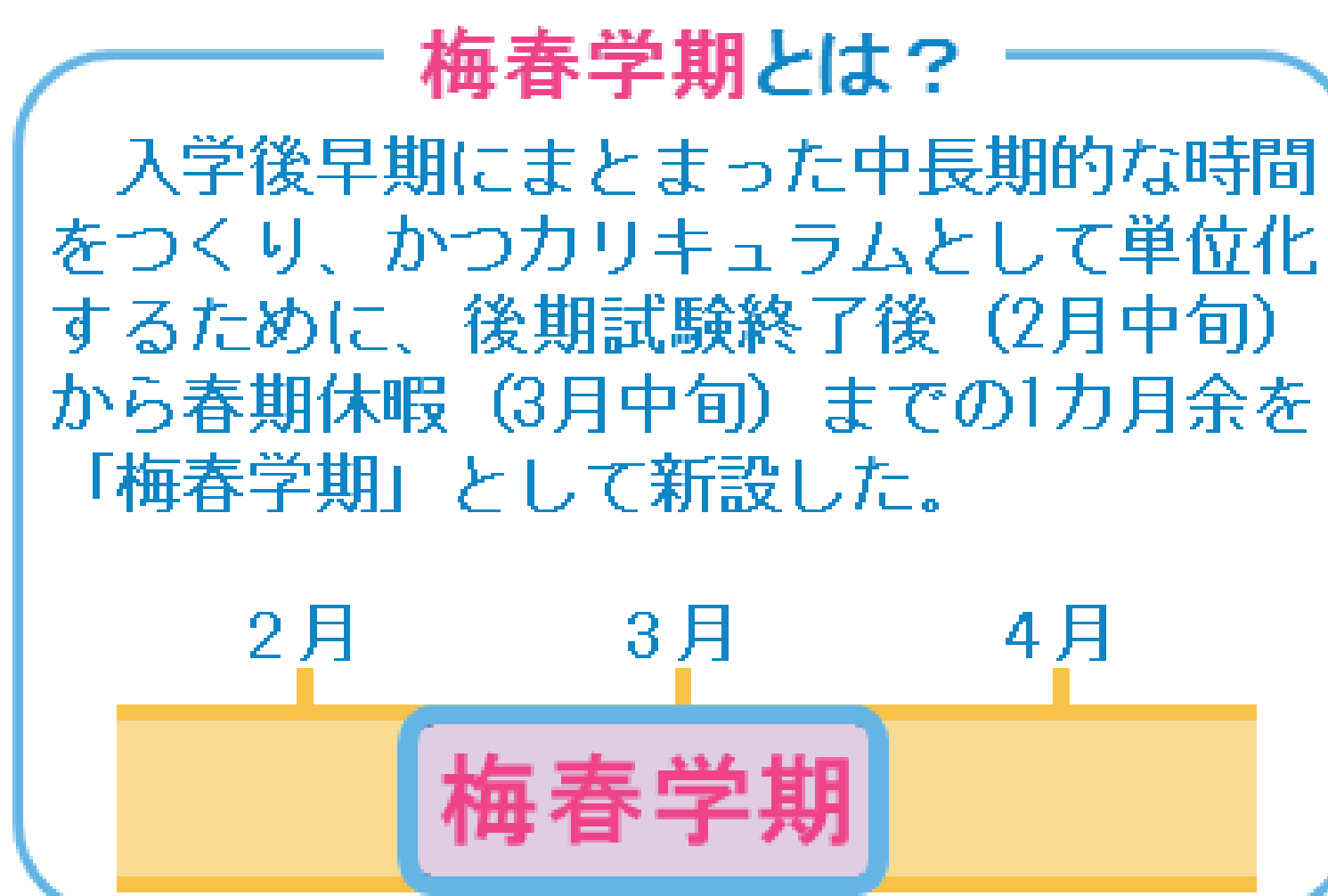
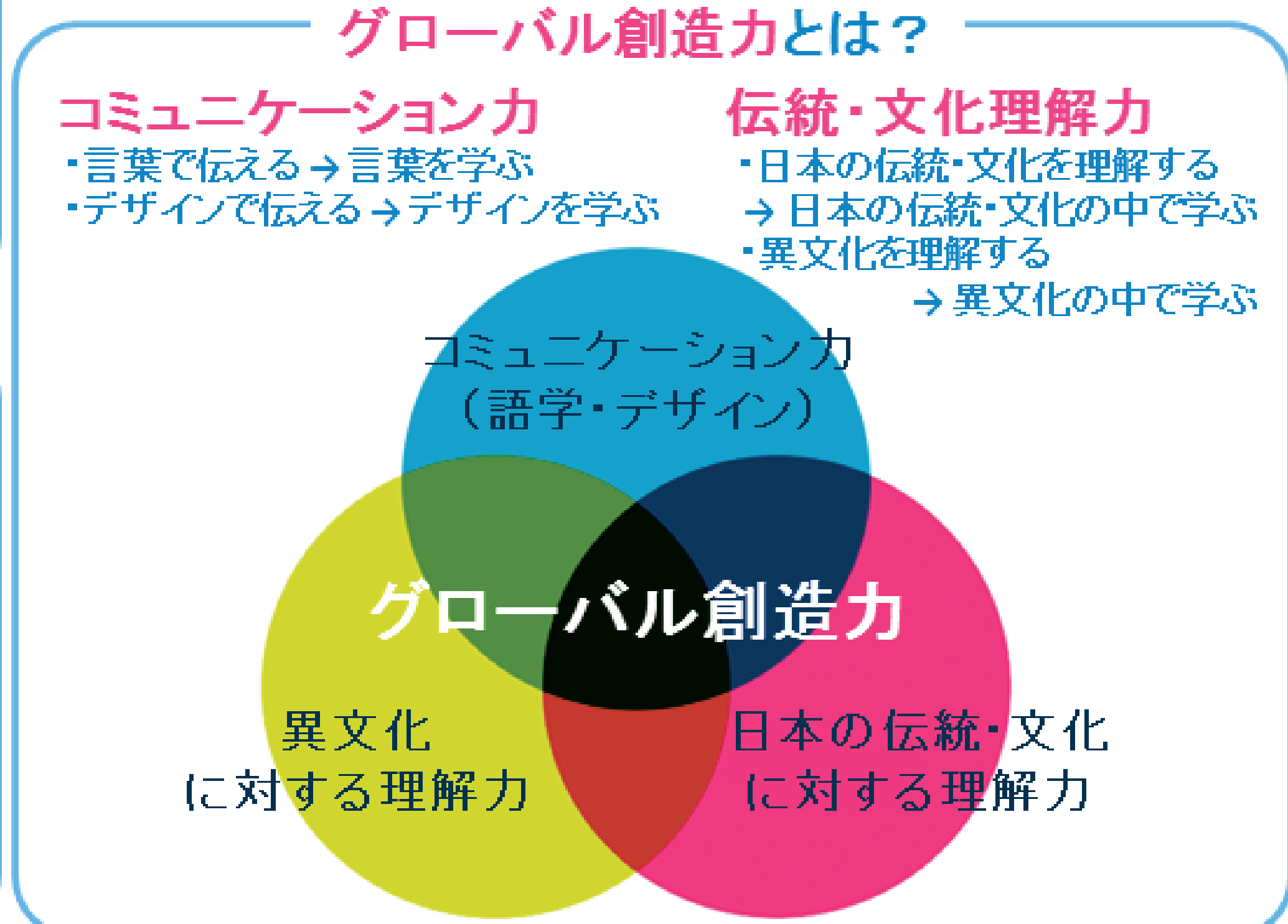
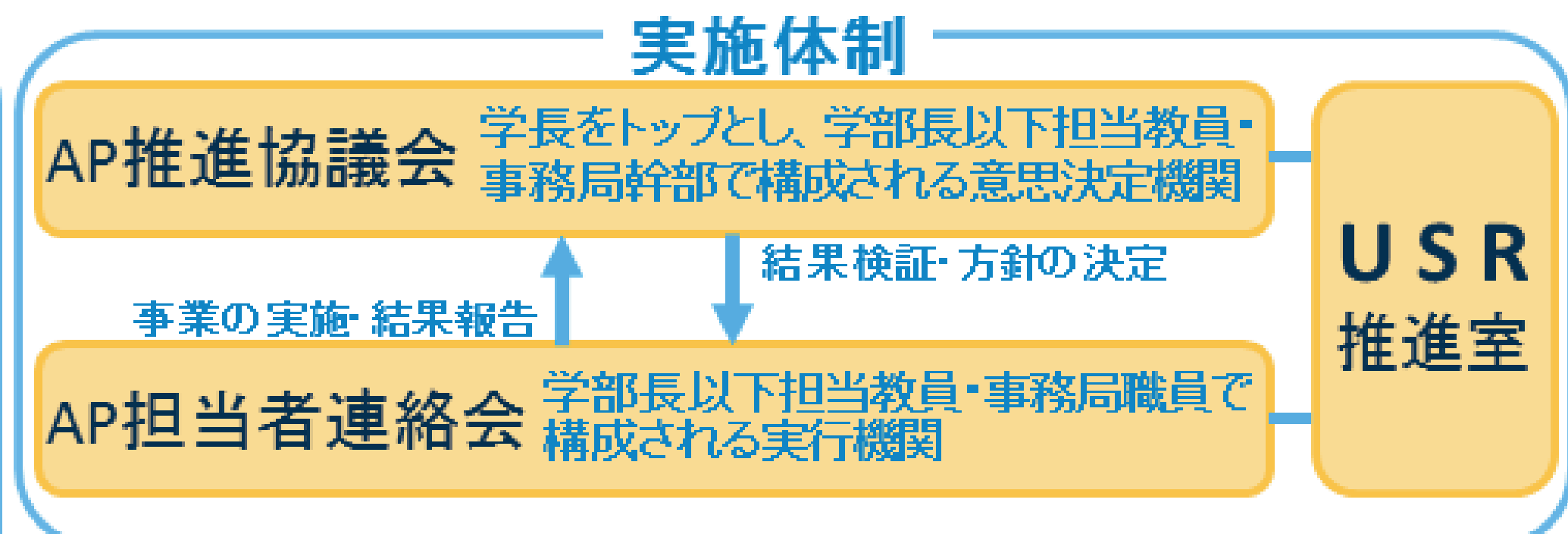
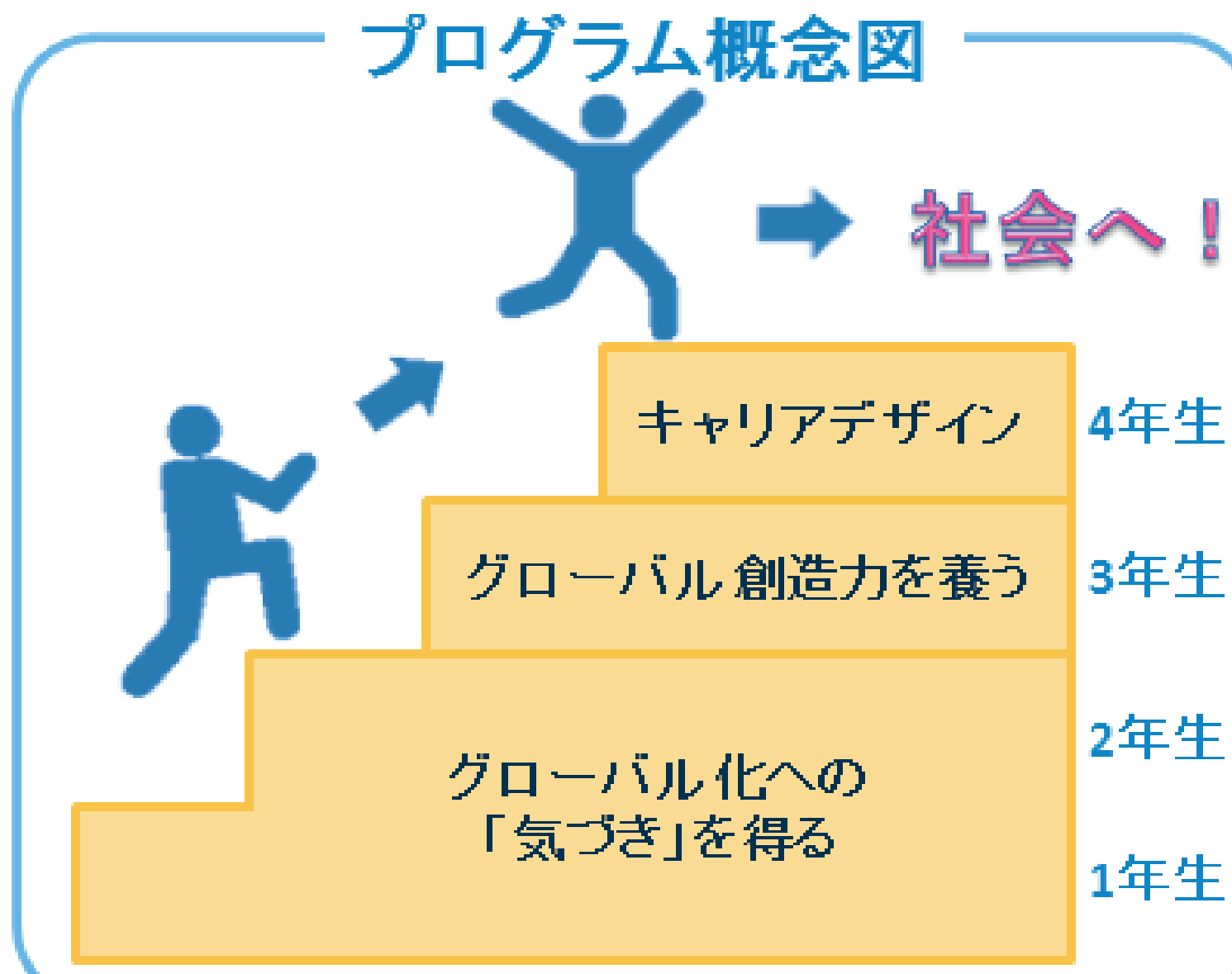


グローバルな人材育成のための学外学修プログラムの成果と課題 ー梅春(うめはる)科目による取り組みー

<梅春学期>の新設とその展開

ファッションの分野では生産拠点の多国籍化や海外マーケットの拡大というグローバル化が進んでいる。文化学園大学では、この変化に対応するため「コミュニケーション力」と「伝統・文化理解力」を培い、<グローバル創造力>を育成するための長期学外学修プログラムを実施している。



梅春科目の概要

プログラム全体の概要
「グローバル創造力」の涵養を目的とする本プログラムは、3年次に開講される8週間以上の学外学修プログラムと1・2年次学生を対象とする4週間の梅春科目から構成される。
梅春科目の目的
後期試験終了後に開講される梅春科目は、学生がグローバル化やキャリアデザインについての「気づき」を得ることを目的としている。

梅春科目一覧(2019年度)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 和紙と漆でものづくり2019(飯山) | ハワイ研修 |
| メンズファッション(岩手東京) | シドニー・メルボルン研修 |
| カットソーの製造現場(山形・東京) | ブリスベン研修 |
| 染めによる着物デザイン(新潟) | ニューヨーク研修 |
| 素材からの商品企画(新潟東京) | シンガポール・インドネシア研修 |
| ハイブランドの製造現場(千葉) | |
| ハイブランドの製造現場(東京) | |
| ファッション企業研修(東京) | |
| テキスタイルの製造体験(東京) | |
| 最新鋭の婦人服製造現場(山形) | |
| ファクトリーブランドの探求(山梨・東京) | |

科目設計の工夫

全梅春科目に共通するスケジュール
・事前研修(2~3日間)
・学外研修(3週間~4週間)
・事後研修(2~3日間)
目的の明確化
「事前研修」においては、現地での研修において必要となる知識の習得だけでなく、なぜ履修したかを学生に問いかけ、曖昧になりがちな「履修の目的」の改めて自覚できるように工夫している。
「振り返り」の効能
3~4週間の学外研修はそれ自体が得難い経験となるが、何を体験したのか、また、その経験をどのように考えたかを、他の履修学生の報告を聞きながら共に振り返ることで、現地では発見できなかった経験の貴重さや意義を「再発見」できるようになる。
この「再発見」された「気づき」は現地での経験と同じくらいに重要なものであるため、事後研修を実施している。

教育効果の検証① 梅春科目の履修が3・4年次の成績に及ぼす効果

2016年度入学学生の梅春科目履修の有無によるGPA平均の差						2017年度入学学生の梅春科目履修の有無によるGPA平均の差					
	履修の有無	平均値	標準偏差	N	t値		履修の有無	平均値	標準偏差	N	t値
1・2年次累積GPA	履修者	3.357	.673	29	1.809 p<.10	1・2年次累積	履修者	3.345	.733	48	1.811 p<.10
	非履修者	3.122	.743	488			非履修者	3.147	.731	650	
3・4年次累積GPA	履修者	3.125	.868	29	3.652 p<.001	3年次前期	履修者	.054	.716	48	2.259 p<.05
	非履修者	3.006	.869	488			非履修者	-.086	.773	650	
3・4年次累積GPA	履修者	-.230	.540	29	1.743 p<.10	1・2年次累積	履修者	3.598	.596	48	2.259 p<.05
	非履修者	-.115	.599	488			非履修者	3.395	.669	650	
1年次前期GPA	履修者	3.655	.342	29	3.652 p<.001	1年次後期GPA	履修者	3.436	.666	48	2.336 p<.05
	非履修者	3.399	.632	488			非履修者	3.156	.812	650	
1年次後期GPA	履修者	3.296	.859	29	1.743 p<.10	2年次前期GPA	履修者	3.296	.908	48	1.857 p<.10
	非履修者	3.083	.869	488			非履修者	3.043	.906	650	
2年次前期GPA	履修者	3.339	.804	29	1.743 p<.10	2年次後期GPA	履修者	3.045	1.151	48	2.163 p<.05
	非履修者	3.069	.867	488			非履修者	2.987	.949	650	
2年次後期GPA	履修者	3.131	.892	29	1.743 p<.10	3年次前期GPA	履修者	3.398	.793	48	2.163 p<.05
	非履修者	2.932	.987	488			非履修者	3.059	1.062	650	
3年次前期GPA	履修者	3.066	1.130	29	1.743 p<.10	3年次後期GPA	履修者	3.175	1.006	29	2.163 p<.05
	非履修者	3.116	.997	488			非履修者	3.139	1.003	488	
3年次後期GPA	履修者	3.175	1.006	29	1.743 p<.10	4年次前期GPA	履修者	3.136	1.179	29	2.163 p<.05
	非履修者	3.139	1.003	488			非履修者			488	

結果と考察

- ・1・2年次の成績が良い学生が梅春科目を履修するという傾向がみられる。
- ・梅春科目の履修が3年次以降の成績に効果を与えるという結果は見られなかった。
- ・現時点で梅春科目は、成績が良く意欲の高い学生に対して、通常の科目とは異なる学修の機会提供するものとなっている。

分析の目的・概要

1・2年次における梅春科目履修が3・4年次の成績に影響を与えているかを検証するために、履修者と非履修者によるGPA平均値に差がみられるかをt検定を用いて分析した。

教育効果の検証②

インタビュー調査の分析の目的・概要
GPAなど数量的なデータとしては表れない質的な効果を明らかにするために、履修学生のうち3年次前期における成績が1・2年次と比較して大幅に増減した学生を対象に、梅春科目履修中の状況および履修後の意識等の変化について、半構造化インタビューを実施した。
結果と考察
・大学では学べないこと(オリジナルの布地の作成や工場における専門的な縫製工程)を経験できたと答える学生は、その経験を大学での学びに活か(そうと)している傾向がある。
・新たな目標を発見するのではなく、それまでもっていた目標が梅春科目の履修によって明確となり、目標達成にむけた具体的課題に気づく傾向がある。

今後の課題

教員の負担の軽減
・現在は科目担当教員が宿泊先や移動手段の手配を含め、ほぼすべての運営を担当しており、プログラム内容の充実には、分業や旅行会社の効率的利用など、教員負担の軽減への工夫が必要。
効率的な科目運営
・教育効果を考えれば、履修学生は5名程度が望ましい。一人の教員が担当できる科目は基本的には1科目であり、科目を増やし続けることは難しい。
履修希望者の創出
・金銭的・地理的理由から最低催行人数に履修希望者が達しない場合があるため、説明会などによる学生へのさらなる周知が必要。

定量的な数値目標の達成状況

	H27	H28		H29		H30		R1	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	
長期学外学修プログラムに参加する学生数割合	0.5%	2.16%	1.37%	3.17%	4.1%	4.28%	2.77%	5.37%	
長期学外学修プログラムを経た学生の成績評価	未実施	未実施	未実施	100	—	112	50	130	
退学率	4.9%	3.40%	4.57%	3.00%	4.2%	2.76%	4.89%	2.50%	
学生の授業外学修時間	—	—	—	指標や測定方法の検討を実施			—	—	調査を実施
進路決定の割合	83.7%	77.1%	77.5%	80.0%	94.2%	85.2%	93.7%	90.0%	
学生が企画する活動数	1	2	2	3	7	4	8	5	

